

2018年11月21日(水)

## 仙台市地域ぐるみ生活指導連絡協議会総会 及び第2回定例会に参加して

今回の定例会では、「思春期の子ども理解と向き合い方」～彼らの自立を支えるために私たちが知っておきたいこと～と題し、聖和学園短期大学 教授 加藤和子氏の講演を聴きました。

加藤氏は精神保健が専門分野とのことで、その視点からの思春期の子どもへの関わり方、脳の発達段階など、とても興味深いお話でした。

思春期は、子どもから大人への成長の過程で「(子どもとして)最後のメッセージを発する時期」。そのシグナルを受け止め、「あなたはこれでいい」と大人への段階に送り出す作業といえるかもしれません。そして、思春期は「親が自分の人生を試される時」ともいえるそうで、これを聞き、自分の胸に手を当てて考えてしまいました。

かつての自分も、思春期の頃は他人の目が気になったり、特に人間関係のことで悩んだりしましたが、時間が過ぎ、大人になると、忘れていってしまいます。中学生の子どもたちを見ていると、当時の苦しさや戸惑いを思い出せる気がします。その時、自分は親にどのように接してほしかったか、どんな言葉をかけてもらいたかったか…それを頭の片隅に置いて、思春期真っただ中の子どもたちに向き合っていけたらと思います。

講演後の質疑応答では、質問やアドバイスを求める声がありました。「あるある」と思いながら聞いていましたが、子どもたちと同様、親は親で同じようなことを悩みながら日々頑張っているのだなと思いました。